

令和8年度 第2回あま市総合計画審議会 会議録

開催日時	令和8年8月18日（火） 午前9時30分から
開催場所	あま市役所 3階 災害対策本部室
議題	後期基本計画策定に係る見直し検討について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	鶴田佳子、谷口庄一、木村考志、静谷貴代子、杉藤一夫、横井光明、小関裕介、横山亜矢子、近藤真司、服部章平、早川安広、溝口正己、鈴木加奈枝
欠席委員	小林優太、鈴木正夫
事務局	市長公室長 服部哲也、調整監 飯田達也、企画政策課長 室田裕貴、企画政策課主幹 八神丘侑、企画政策課主幹 説田将光、企画政策課課長補佐 近藤尚和、企画政策課主任 伊藤勇人
次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 議題 後期基本計画策定に係る見直し検討について 4 その他 5 閉会
配布資料	資料1 令和8年度第1回あま市総合計画審議会における意見とその対応について 資料2 中高生のあま市への定住意識について 資料3 第2次あま市総合計画 後期基本計画 素案

	1 開会
事務局	皆様おはようございます。本日も忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。ただいまより、令和8年度第2回あま市総合計画審議会を開会いたします。 本日、鈴木委員、小林委員より欠席のご連絡をいただいておりますので、ご報告させていただきます。総合計画審議会条例第6条第2項に定める数を満たしておりますのでよろしくお願いいたします。また、この会議は、公開でございますのでよろしくお願いいたします。なお、携帯電話をお持ちの方は、電源をお切りになるか、マナーモードにさせていただきますようお願いいたします。本日の会議は会議録を作成いたしますので、会議中にご発言の際はお手元のマイクをオンにしてからご発言をお願いいたします。 続きまして、資料の確認をさせていただきます。

	本日の資料は事前にお渡しさせていただいておりますが、お持ちでない方はお見えでしょうか。ありがとうございます。 それでは次第に沿って進めさせていただきます。 はじめに、会長ごあいさつをお願いいたします。
	2 会長あいさつ
	3 議題 後期基本計画策定に係る見直し検討について
会長	おはようございます。本日もよろしくお願いいたします。 今日は遅くとも 11 時半を目途に進めていきたいと思っております。たくさんの方のご質問、ご発言等いただきますように、また、簡潔に資料等を見たりしますのでよろしくお願いいたします。本日は第 2 回で、全体を通じて 4 回となっております。前回 6 月 30 日にいろいろご意見をいただきましたものについて、今、出ている資料の中に、どのように対応したかという対応表を作っていただいております。それに基づいて前回から修正になった部分と、資料 3 あま市総合計画の素案の内容につきまして、前回ご意見をいただいた部分について、修正あるいは対応を説明していただけると伺っております。 パブコメ前にもう 1 度、11 月に（審議会が）予定されておりますが、逆に言うと、今日はとにかくたくさんのご意見をいただく最後のチャンスかなと思います。11 月の時は、そこで受けたご意見はパブコメ前に修正、基調替えはしますけれど、できましたら今日できるだけご意見をいただいて、それを次回 11 月に確認し、そこでパブコメに出すというかたちにしたいと思っております。 短い時間ではございますが、ご協力をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。 それでは早速議題に入りたいと思います。 「後期基本計画策定に係る見直し検討について」を事務局からご説明をよろしくお願いいたします。
事務局	（担当者より資料の説明）
会長	ありがとうございました。 ただ今の説明について、ご質問やご意見がございましたらお願いします。 前回ご発言いただいた内容が、皆様の発言通り修正されているかどうかということもあればと思いますが、よろしくお願いいたします。
委員	前回発言の要支援者名簿についてですが、先ほど障がい福祉課に寄って確認してきました。ここの回答にある通り、現在は名簿を提供し、認定した人は削除しないというように運用されているそうですが、実際、昨年 9 月の段階ではグループホームに入所したということで名前が消されていました。昨年秋に地域福祉計画・地域福祉活動計画の会議で同じような発言をしましたが、多分それを受けて戻されたみたいです。「現在は名前がちゃんと入っているかどうか確認してください」と言ったら、「入っています」と言われました。

	たまたま私は民生委員という立場だったので個人情報を知り得ましたが、大半の保護者さん、本人たちは知らないわけです。その通知がなくて、この発言をしたことで再びハシゴがかけられたということを、本人に通知してほしいと思います。不安でしたので、(先ほど障がい福祉課に) 確認してきました。でも発言したおかげで元に戻りましたので、ありがとうございます。
会長	この会議の重要性を感じます。 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。
委員	意見No.11、自治会関係についてです。市のほうで街灯とか消火栓関係を賄うのは難しいということだったのですが、そういうことであれば現状でいくしかないと思われます。そうすると、やはり区に入っている人と入っていない人との不公平感は拭えず、ずっと残るのではないかと思います。 甚目寺地区だけなのかもしれませんが、加入率がどんどん減ってきています。この間聞いた話では、甚目寺地区のある大字の自治会がなくなったということで、大字なので大きい単位だと思います。 そうすると、その大字の街灯がどうなるのかという疑問が残ります。今のご時世、町内会に入る人が減っていくと、この自治会等の存続が危ぶまれます。そうなった場合に、今は街灯や消火栓等を市で賄うのは難しいということですが、最悪自治会がなくなること考えなければと思います。これはあくまでも危惧です。 もう一つ、これは要望ですが「区に入ることを周知する」というような文言が(計画の) どこかにあると思うのですが、(自治会が) 加入促進ができるのは回覧板が回せる区に入っている人ですね。ところが今、問題になっているのは区に入っていない人で、回覧板が回せないのも、自治会では啓発することができません。ですので、自治会の必要性、自治会の費用で何が賄われているのかということを、区に入っていない人は知らないのではないかと思います。 街灯や消火栓といったものを自治会で賄っているのではないかなと思うのですが、そのことを区に入っていない人にも周知して、区に入る必要性があるということをも市の広報でぜひ伝えていただきたいと思います。そういうことを伝えられるのは広報しかないのではと思います。よろしくお願いします。以上です。
会長	関連して思ったことを言わせていただくと、多分、同じような自治体があると思うので、全国でどういう対応をされているのか、今後検討するとなっているので調べていただきたいというのがあります。今みたいに災害が起こると、地域で助け合うしかありません。地域力を支えていくということによって、地域が持続的にあり続ける、安心して住み続けられるということになると思うので、そのあたりも含めてここはきちんとやっていかないと、実際災害が起こった時にすぐ困ることになると思います。 もう一つ、今おっしゃられた広報ももちろんですが、例えば転入届を提出しにいらした時に紙を配布するだけでなく、その紙を目立つようにして、こういうこと

	は区に入ってもらって、会費から皆さんの安全を守っているのです、災害が起こればあなたは避難所を使いますよね、と。転入者によくよく丁寧に説明していただく。特に心配な地域など、今までのやり方でいいということではなく、他の自治体も調べて、今言った方法の検討や、その先には災害等が起こった時の対応もありますので、ぜひ検討していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 他にいかがでしょうか。 説明はすごくわかりやすかったのですが、少し気になったところがあります。例えば90ページの「観光」、76ページの「高齢者福祉」の成果指標で、中間値が少し下がっているけれども、「高齢者福祉」は令和2年現在で52.7%、令和7年の中間値は49.6%、目標値70.0%となっています。同じように90ページの「観光」は現況値71.1%、中間値は69.5%、目標値が82.0%となっています。これはこのままいくということで、下方修正をどの段階でするのかどうかかわからないですが、令和2年の頃と何か状況が変わっていて、これは絶対無理そうだということで、この時点で逆に達成できないような目標値を掲げるよりも、現状に合った目標値に修正したほうがいい、というようなことはご検討されているのでしょうか。
事務局	基本的に、下方修正につきましては行わないようなかたちで各課にはお願いしているところではあります。ただし、現状で成果指標そのものの見直しが必要と思うところについては見直しを行っております。 例えば、75ページの「地域福祉」の部分で、これまでボランティアセンターの登録団体数を成果指標にしておりました。しかしながら、ボランティアセンター登録団体数の数値について、当初は地域住民の集まりのような活動までカウントをしていましたが、現状では整理しているようで、数値の内容が変化してきている。そういった中で担当課と成果指標の内容を協議したところ、今、社会福祉協議会で力を入れていただいている「いきいきサロン」という事業があり、こちらの開催状況については、地域の皆様の共助の施策としてふさわしいのではないか、力を入れていきたいのではないかという話をいただいたものですから、これで見直しは行っております。こういった例のように、変更の理由がないものについて下方修正は行っていない、といったかたちになっております。
会長	別に下方修正を求めているのではなく、逆に言うと今の中間値は下がったけれども、頑張って当初の目標値を達成するんだという意気込みというように捉え直すのも全然構いません。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。
委員	福祉避難所の件です。今、基本計画があって、その後実施計画が策定されるわけで、検討が進んでいます。そうすると、本当に障がいを持っている子たちは場所に慣れるのにすごく時間がかかり、あっちへ行き、ここがだめならこっちへ行きという感じで、たらい回しにされるのがとても辛いのです。ですから実施計画

	を立てて、福祉避難所が指定されるようでしたら、きちんと公表してほしいと思います。それが一点。 No.8の施設の老朽化で「今年度および来年度にかけて実施する公共施設等総合管理計画の見直し」とあるのですが、例えば美和公民館は老朽化によって閉鎖が数年後に決まっていると思います。そこを今利用されている方がすごく多くて、場所の奪い合いとなっています。でも数年後に壊されたら、次の代替の会場がどこか全然明確に示されていないということで、皆さんすごく不安に思っているそうです。実施計画を立てられたら、そこを利用されている関係諸団体への通知を徹底していただきたいと思います。よろしくお願いします。
会長	事務局のほう、ご回答ございますか。さっきの登録について、公表していきますという文言を付け足すのは、ここではやめたほうがいいのかもわからないけれども…。登録を周知しますというみたいなことも含めて、ご回答いただければと思います。
事務局	福祉避難所については、今、福祉部のほうで検討しております。避難所に避難されてから福祉避難所に移っていただくというプロセスがありますので、ここの流れを踏まえて今後検討していくべき必要があるのかなと思います。 今、(本市の防災カレッジにて講演いただいた)先生のご助言をいただきながら、福祉避難所にこういったものが必要かということもあり、避難所の中の一部を福祉避難所とするのかといったことも検討しています。ここの部分は今後お知らせできるかと思います。
委員	一般の避難者の方と、障がいや高齢者でとても体が不自由な方が一緒に避難生活が続けるというのはすごく難しいことです。一晩ぐらいならお互い様で我慢ができますが、一般の方も被害を受けてストレスを抱えている中で、特に障がい者が安定しなくて大声を出す、夜中も眠れなくて動き回るなど、そういうことが続くことは目に見えています。 やはり、一般の避難所の中の一部を福祉避難所にするのはすごく課題が多いと思いますので、検討をお願いしたいと思います。
事務局	そちらにつきましては、福祉部のほうにも共有させていただきます。
委員	もう一点。各既存の福祉施設の点検を進めているとおっしゃっています。ずっと前の社会福祉課の方は、前もってそういった点検をした施設がたくさん増えれば、ここに直接避難してくださいと言えるような体制にもっていきたいとおっしゃっていましたが、それは本当に安心です。 地域に行って「ダメだ」と言われて、次のところに行って「ここもダメだ」ということが一番辛いので、うちは最低でも車内泊になるのかなと思っています。そうせざるを得ない状況だと思うのです。本当に安心して避難できる場所というのは、障がいをもっている子の人数は確かに少ないかも知れませんが、市民の一人として公平に扱っていただけたらと思います。よろしくお願いします。

委員	先ほど会長さんが成果指標のことについて言われました。私、以前会議後に成果指標のことで伝えさせていただいたのですが、特に子ども・若者相談窓口相談者数。これは86ページに資料がありますが、現況値21人が中間値で5人です。目標値が40人で、潜在的な対象の方々がどのくらいみえるのか把握しているのらしいですが、多分把握していないのに、相談者数だけ増やすという指標はおかしいのではないかなという観点です。例えば、相談者数の中で改善した人を何人にする、80%、100%にするということなら指標としていいのかなと思いますが、見直さないと言われたので、今5人しかいないのに、40人も相談者数を増やすというのは、ちょっとどうかなと思っただけです。もう一回事務局のほうに返していただけるとありがたいかなと思います。
会長	何かこの件に関して他にございますか。多分いいアイデアがなくて、事務局も困っているところではあると思うのですが、他にいい指標があれば、そちらに代替することもあるのかなと思います。何かいいアイデアをお持ちであればいかがですか。
委員	特にアイデアということではないですけども、やはり相談の体制とか、周知であったりとか、あとは相談しやすさというものを書いていけば、もっと目標値を上げるということは可能なのかなというふうには思います。やはり本当に落ち込んでいる人じゃなくて、その予備軍を拾うことによって、自殺の問題も間接的にクリアになるということがあるかなと思うので、たくさん相談してもらうことはいいのかなと思ったりします。今、LINEで相談ができたり、いろいろあるかなと思いますので、手段を書いてみるとか、もし目標値を40人にするのであれば、そこをちょっと変えていくというのも一つの方法かなと思います。委員のおっしゃることも、もっともだと思っています。
会長	今のご意見、まさにそうだと思います。それを指標化する。窓口の数ではないと思うのですが、チャンネルを増やすとか、そっちのほうがいいかもしれません。何かいい指標はないですか。教育現場でも本当に困っている子がどうやって声を出してくるのか。うちの学校の相談室に言えない子がSNSで発信していて、その声を我々が受け止めてアプローチしていくなど、いろんな方法を今もやっています。そうしないと、本当に困っている子はなかなか声を出せないで、それをどう救い上げるのかというのは、課題になっているんです。その辺の相談を数値目標にはなかなかしづらいので、そういうことを踏まえてっていう…どうなんでしょう。 何か市のほうで、検討していただくということで、委員いかがですか。 今みたいなことを背景にしつつみる相談件数というふうに理解して、それをどこかの文章に残せるのかどうかも含めてご検討を。これだけ読んでみると、確かにほとんど問題の人が増えてくるのかみたいに読める。多分そうではなく、今発言にあったようなことが背景だと思いますので、そういうことがわかるような工夫

	を含めてご検討いただけたらと思います。また 11 月の時にお伝えいただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。他にいかがでしょうか。
委員	公民館などの老朽化について、あま市に合併して 3 つの町が一緒になりましたが、どこも全部老朽化なんですね。16 ページの財政資料について、お金がないからできないというように私はとったのですが、市になってから 10 年以上経ちますが、修繕をせずにここまで来た結果が今だと思うんです。 甚目寺公民館も 2 年続きでエアコンの水滴が落ちて、去年きれいに直していただいたのですが、また今年も水漏れしています。使わせてもらっている者からすれば、お金がなくて大きな修理ができないなら、企業用のエアコンを 1 台ずつ付けてくればいいのに、という意見も出ていました。だから、これもできません、お金がないです、ではなく工夫をお願いします。生涯学習で公民館はとても必要な施設です。
会長	今の 3 つの公民館、公共施設等総合管理計画ではどのような扱いになっていますか。廃止、統合ですか。
事務局	第 1 期から第 5 期まで、10 年ごとに分かれておりまして、第 1 期が令和 8 年度までになっております。七宝公民館と美和公民館につきましては第 2 期ですね。令和 9 年度から 10 年間の間に廃止、統合ということになっています。甚目寺公民館につきましては、第 3 期に統合というかたちに現在の計画ではなっています。
会長	そうすると、公民館も人もかなり制限されるということですね。
事務局	現在の計画ではそうですけれども。
会長	廃止、統合で、将来的には無くなる施設なので大規模改修はできない。
委員	生涯学習でいろいろ活動している、地域にあるから行ける人が大部分です。それがなくなって統合されれば、限られた人しか活動ができませんよね。
会長	統合される時に、公民館をどこか一個にするのではなく、例えば甚目寺なら、甚目寺の何か他の公共施設と統合するということもあるので、私の個人的な意見ですが、廃止、統合する時の統合先はできるだけ地域に根差したところで考える。それが無理であれば、公共交通とネットワークを連携しないと、当然利用者の方が利用できなくなるとは困るというふうに思っているの、市からどうしようかと聞かれたら、そういうことになるかとは思いますが。 美和（公民館）の前例があるので、甚目寺（公民館）を使っている人としては「私たちはいつなんだろうね」と不安に感じる。 公共施設等総合管理計画の中で、自分たちが今使っている施設は将来どうなるということが、ここのメンバーの方にさえ伝わっていないということなので、やはりそのことをきちんとどこかで、もう少しわかるように伝える工夫が必要だと思います。WEB でもいろんな情報の出し方があり、そういうこともちょっと工夫する、あるいは広報で特集を作るとか、市民の皆さんの耳に入る情報を伝えられたら、不安がなくなるのではないかなと思います。統合という言葉を聞くと、遠

	くにいつてしまう気がしますが、そうとは限らないと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。
副会長	研究者っぽい発言になって申し訳ないですが、公民館は社会教育法で示されているとなれば、行政が面倒をみななければいけないのでしょうけど、東日本大震災の時の調査では、割と自主的に設置されている公民館が多くありました。つまり地域が行政から支援をもらわないで、土地なども自分の土地を提供して建物をつくる、そこがコアになっているところの復興は早かったですね。地域支援や障がい者、高齢者に対する支援は、行政が入らないほうがすごく機能的に動いているのは間違いない。行政が関わっている公民館は、結局行政の判断が必要なので、どんどん遅れるんです。先ほどの町内会の話と絡むのかもしれませんが、地元の人たちが担当している、お金を積み立てていると、例えばエアコンなどの修繕も圧倒的にそちらのほうが早いです。別にどちらがいい、悪いとかではなくて、大規模な災害の時は、自主的に運営されている公民館のほうが圧倒的に市民のためのコアの施設になっていることは間違いないです。すみません、余計なことを言いました。
会長	ありがとうございました。まさに先ほど私がお話しした地域力なんですけど、やはり平時の頃からそういう活動を続けていると、コミュニティの評価になり地域力も高まるので、災害があった時も非常に力強いということ。ただ、いきなりみんな、というのはなかなか難しい。そういった公共施設の考え方もありますよということかなと思います。他にいかがでしょうか。
委員	今のお話ですと、自主的に地域に施設をつくるといったことは、結局は自治会単位になるのですよね。でも今現在、私は甚目寺ですが、家は建って、新しい住民も増えていますが、町内（会）が毎年一つずつ消えていくんです。そういった中で、私の町内でも「役をやらなくていいから入ってください」というかたちで（お願いしています）、私は歳をとってもやっているんですけど…。 町内（会）がないと、そうなった（災害などの）時に機動力となるものがなくなってしまう。甚目寺も1／3ぐらいは町内（会）が消えています。そういうことは行政の方もわかっていると思います。それをどのように改善というか、地域の努力もいりますが、行政のほうで「入ってください」と言っても、若い人でもいろんなことで出て行くのが面倒だから「やめた」という感じで…。 今も分別ごみで毎月行くのですが、入っていない方が結構たくさん持ってみえます。それが私たちにとっては「どうして私たちだけ」ということもあるんです。やはり自治体の基本というものをもう少しはっきりしてほしいと思います。
会長	非常に根深い問題。ただ今日ここで議論をしても仕方ないので、先ほど私が申したように、加入者を増やす意義を転入してくださる方に周知して、そういった地域で活動できる人を育てるという啓蒙活動を是非推進していただきたいと思い

	ます。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。他、いかがでしょうか。 今日いただいたご意見を市のほうでもんでいただきまして、次の時に一応最終版というかたちでパブコメに出す最終案を出していただきたい。それをまた、もみたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 次、「その他」とありますが、何かございますか。
副会長	No.4とNo.18。中高生アンケートの詳細な資料をありがとうございました。ただ、中学生の段階で「あま市を出ていきたい」とまで答えるというのは、やはりどこに問題があるのか、きちんと分析を進めていかないといけないですね。 私はたまたま美和高校さんといろいろやっているの、話を聞いている限りでは、やはり家の中で家族が、おじいさん、おばあさんが、美和のことをあまり良く言わない。これが割と出ていく一つのきっかけになっている。高校生の場合は大学を考えると、あま市は大学がないので出ていかないといけないですが、ただ、ここは名古屋に接しているので、名古屋の大学であればほとんどが通学することが可能だし、仮に働くにしてもほとんどが通勤できると。例えば東京や京都、大阪など、それなりに知名度のある大学に進学して、そこで東京の企業に就職が決まった場合、ほぼ間違いなしにご家族やおじいさん、おばあさんは「それでよかった」「あま市まで戻ってくるような企業はないでしょ」というようなことを言ってしまう。それでは戻ってきませんよね。特に中学生なんかは、家を出ていくなんで、まず普通は考えられないわけで、それは家族が言っているからとしか考えられない。 それから考えると、やはり大人が「この、あま市がいいんだ」というような意識にならないと、子どもには伝わらないと思います。家賃がどうのこうのとありますが、中学生や高校生で自分の家のローンの返済金額とか、家賃とかまず知らないと思います。ただなんとなく名古屋よりは安いというのは、何がしかの情報はあるのでしょうか。それは一体いくら安いのかそこまでは知らない。本当に安いかどうかはわからない。ここは割と隣接しているので、愛知県の中では安いほうではないかもしれない。そういうことではなくて、家族や身近な人たちの情報でしかないの、やはりそのあたりに一番の問題があるというふうに考えて、やはり大人の意識であま市はいいところだと思わせる。5年後、10年後、ここで死にたいと思えるようなまちにしなければいけないのかという話をしていましたけど、そういったことが特に中学生には、多分敏感に響いているのではないかと思います。 たしかに中高生のデータの分析だけみれば、この通りですけど、このデータに関してはこれがどうのこうのというよりは、どちらかというと指標のデータ。これで分析するよりは、やはりあま市がやっていることが中高生にどう映っているかというデータなので、他のデータとはちょっと扱いが違うはずだと思います。

	買い物する場所とか何とかなの話がありますけれども、最寄り品と買い回り品があって、最寄り品は近くにあったほうがいいでしょう。では、イオンモールがくれば、みんな満足するのか、決してそうではないと思いますね。特にカルチャー系やスポーツ、野球、バスケット、サッカーにしても、ここからだとい帰りで観に行くことができるわけです。そのくらい便利な場所にありながら、まだここにアリーナとかスタジアムをつくらばいいのかといえばそういう話でもない。名古屋に近接しているメリットを活かしながら、あま市がどれだけ住みやすいところかということ、まずは親世代、おじいちゃんおばあちゃん世代に納得してもらって、結果として子どもに響いていくと。高校生ぐらいなるといろいろなものが見えてくるので難しいと思いますが、やはりあま市内の高校に行ったことで良かったと思わせるためにはどうすればいいか。周りの家族や親せきが「こんなところにずっと住んでいてはだめよ」と言っは、それでは住みたいとは思いません。他の委員会で10年以上関わっていますけれども、よく皆さん反省されています。「つい言っちゃった」みたいな。そう言わせないような総合計画を作るのではないかなと私は思います。 きれいごとかもしれませんが、行政におんぶにだっこは、確かに今まではやれたかもしれないですけども、現実問題はもう難しいです。では何を地域で、行政でやらなければいけないのか。上位計画をしっかりとやった上で、地元でどうしてもできないものに関しては、どう対応するのかというようなことの指針を少し作る。さっき地域ごとの、とありましたが、合併した甚目寺町、美和町、七宝町は元々文化が違うわけですから、10年や20年で一緒になるのは難しいです。 例えば豊田市は、たくさんのところを合併させて大きくなりましたけれども、結局は再処理が無理だったから、元のあった町村ごとにコミュニティみたいなものを作って、そこにご予算を分配する。そこで地元の人たちが話し合って考えていく。新城市も結構時間をかけてそういう仕組みを作っていました。それがあま市にはまるかどうかかわからないけれども、例えばそういうことで一生懸命苦労している、いろんなチャレンジをしている市や町が愛知県の中にもあるわけです。その辺をしっかりと分析した上で、あま市では「こういうやり方がありますよ」というものを市民に提示されたらいいのではないかというふうに思います。 でないと、ずっと市民側からクレームがついて、行政が「いや、できません」ということになって、それでは住みたくなります。それが結果的に子どもに反映するわけですから、どんどん悪い方向に回っていくしかないのではと思います。せつかく地元のことを心配される方が集まっているわけですから、市長さんも代わり、それだけにもう少しドラスティックにやられてもいいのではないかなと。余計なことかもしれませんが…。元に戻しますと、中学3年生で「出ていきたい」というのは子どもたちの考えではないと思います。以上です。
--	---

会長	ありがとうございました。アンケートのことで言い忘れていたのですが、今の副会長のご指摘と関係があるかどうか分かりませんが、アンケート調査結果を必ず調査していただいた方に“こういう結果でした”と返します。こういう結果で、この課題を我々はこうしていこうと思います、と。 調査した方に対してのお礼はそれしかできないので、これも同じように、こんなにたくさんの中高生が答えてくれたので、調査結果はこんな感じでしたよ、みなさんが思っていることはこうでしたよ、これに対して我々はこういう計画書を作りましたよ、皆さん一緒に頑張りましょう、というレスポンスをしてあげないと。結局彼らは「アンケートを書いたけれどもどうなったのかな」と、やりっぱなしになってしまいます。もっと言えば、例えば彼らが「レジャーがほしいです」と言っているところを、ちゃんとここにあるよ、一緒に頑張りよう、というふうに思えるには、お互いにやり続けないと信頼関係が生まれないので、今はゼロとは言わないまでも、あまりないとすると、先ほどから、行政のやっていることが市民に伝わっていないことがいろんな中から読めたので、もっと頑張っ、中学生、高校生も含めた市民と行政との信頼関係が構築されていくと、お互いまちづくりがやりやすくなるし、定住も進むのではないかなとも思います。 アンケートの結果を伝えつつ、総合計画をお伝えすることもできるんですよね。彼らは自分たちの意見が反映されたと思えば、もうちょっと読もうかなと。多分他人事ではなくなるので、それが大事かなと思い発言させていただきました。何か関係して、ご発言はございませんか。 では他に「その他」として何かございますか。事務局はございますか。
	4 その他
事務局	事務局からでございます。 次回の審議会は11月10日（火）の午前9時半からを予定しております。改めて開催通知を送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。
	5 閉会
会長	ありがとうございました。 今日は非常にスムーズな進行にご協力いただきましてありがとうございました。 この後何かあれば事務局のほうにご意見をいただければ、11月の時にまたお話しいただけたと思いますので、よろしくお願いいたします。 今日はどうもありがとうございました。これで閉会いたします。

以上